

# はにい

# あいたくて

平成25年5月27日

中学校へ入学して3日。詩の学習はもう2時間目です。  
おや、後ろの扉から学級担任の香川先生が入ってきました。みんなの斉読みを聞いています。

「あいたくて あいたくて あいたくて あいたくて  
・・・ きょうも わたげを とばします」 \*1

一斉読みが終わって、国語の先生が言いました。  
「いいねえ、香川先生に聞いてみようか。学級担任としての感想を。」  
「いや、こんなに声が出てるのはすごい。今まで見た1年生の中で一番すごい。もう、秋の合唱が楽しみです。」



学級担任は、ノートを片手に子どもたちの対話に入っていきます。



グループの対話の中でサトシ君が小さく言いました。  
「ん？『心も光っている』ってどういうことだ？」  
「お、サトシ君、いいんじゃない。その疑問もここに書くといいよ。」  
香川先生は、子どものつぶやきにそうこたえました。

授業のあと、香川先生はこう話してくれました。  
「僕の周りには、今、大学を出てから何をしたいのかわからない、という友だちが本当に多いんです。この子たちには、しっかり、社会とのつながりの中で生きていける人になってほしい。」

そのために、まず、大人の私がこの子たちとのつながりを作ること。そしてこの子たち同士のつながりを作ること。それが必要なのだと言います。  
「それは、ひとつひとつの声かけの積み重ねですから。」

あいたくて あいたくて あいたくて あいたくて  
・・・ きょうも わたげを とばします

\*1 工藤直子『のはらうた(1)』童話屋 より